

## 今日の説教のポイント<ルカによる福音書1章26-38節>

有名なマリアの受胎告知の場面。信じられない処女降誕。しかしマリアは信じた。それはどうして？

誰でも驚き、信じられないと思うマリアの処女降誕。それは最初に告げられたマリア自身も同じだったはずです。その彼女がなぜ信じるに至ったのか？ この箇所を読むと、幾つかの理由が見えて来ます。

第一に、神様が天使を遣わされてマリアに説明されたということ。「今から起こることには神様の側に理由があるということ」に、マリアは気づいたのです。全てを聞いた後にマリアは、「お言葉どおり、この身に成りますように」(38)と答えています。「まだ分からないことはあるけれど、これから神様はこの世への神の好意を示される出来事を起こされる。そのために私を用いようとされている。全てを神様に委ねて、それを受け入れよう」、マリアはそう決めたのです。このことは私たちにも当てはまります。何か予期しないことが起こると、私たちは慌てます。しかし、「神様は全てをご存じで、良きように導いて下さるのだ」と、まず考えることから始め直すことが大事なのです。

それにしても、おなかに赤ちゃんが与えられるということには驚いたでしょう。「どうしてそんなことがあり得ましょうか。私は男の人を知りませんのに」(34)とマリアも言っています。すると、天使は、「神にできないことは何一つない」(37)と語りかけたのです。「マリアは、この子の命を作るのは神であるということを理解し、この子を神の作品として受けとめることが出来たのだ」(シュラッター)。「間もなく起こる出来事は、年老いた夫婦と未婚の女性という不可能さを通して神が働くという、神の力を示しているのである」(クラドック)。

最後に、神様はマリアに、「年老いエリザベトにも男の子を与えたから、会いに行ってみなさい」、と言われました。信じられるための大きな助けです。私たちはここで、先週の箇所で聞いた、エリザベトとザカリアに男の子が与えられた大きな理由の一つを理解するのです。「神様のなさり方」があるのです。そしてそれは、後になって段々理解できるようになる面を持っているのです。私たちの場合も同じです！